

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 5 月 27 日現在

機関番号：12101

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520613

研究課題名（和文）ヨーロッパ言語ポートフォリオに基づいた入学前教育の体系化・標準化に関する研究

研究課題名（英文）Systemization and standardization of remedial English education based on the CEFR

研究代表者

永井 典子 (NAGAI Noriko)

茨城大学・人文学部・教授

研究者番号：60261723

研究成果の概要（和文）：大学入学前教育における英語読解教育の在り方を入学前教育の特徴、対象学生の英語能力レベル、及びヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）の「情報及び議論の為の読解能力記述文」を基に検討し、教材を開発した。教材は、自律的学習を支援するためのポートフォリオと、語彙・文法レベルはCEFRのA2（初級上）に限定しながらも大学教育で必要となるB1（中級下）の読解法力が育成できる読解テキストを一体化したものとした。

研究成果の概要（英文）：The study first examined what remedial English education should be considering its constraints, proficiency levels of target learners and the CEFR reading for information and argument descriptors. Then a reading textbook was developed. The textbook aims at promoting learners autonomous learning by providing portfolio. It also attempts to help learners develop their reading competences and strategies, while the range of vocabulary and grammar in the text is restricted to A2 level.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
2012年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：入学前教育

1. 研究開始当初の背景

入試制度の多様化により、様々なタイプの学生が大学に入学し、学士課程教育を開始する時点で、知識・技能に大きな差が生じている。さらに、2009年度には、大学への進学率が50%を超え、学生の学力低下が深刻な問題となっている。このような状況下、大学入学前教育の重要性が広く認識され、実際、何らかの形

で入学前教育を実施している大学は増え続けており、未導入であっても導入を検討している大学も多い。しかしながら、多くのケースにおいて、入学前英語教育における学生の達成状況は期待したとおりに伸びず、深刻な学力低下問題に効果的な打開策が打ち出されていない状況である。

2. 研究の目的

本研究では、まず「学士課程教育導入英語ポートフォリオ」のあり方を検討し、その結果を基に、ポートフォリオを実際に作成する。

- (1) 「学士課程教育導入英語ポートフォリオ」のあり方とその内容を検討するために、ポートフォリオの使用者である大学入学者の英語能力と学習スタイルの実態を明らかにする。さらに、高等教育用に開発された *European Portfolio for University Students* (European Association of Language Centres in Higher Education 2002) や *ELP Higher Education* (European Language Council 2002) などと国内で開発された *can do* リスト(根岸 2006、長沼&宮崎 2006、阿野他 2007 等)を比較検討することで、日本の学士課程導入教育の到達目標を設定するためのベースとして必要な *can do* リストの項目を明らかにする。
- (2) (1)の研究を基に、以下の構成物からなる「学士課程教育導入英語ポートフォリオ」の試作版を作成する。
 - ① 大学が到達可能な具体的な目標を設定するための基準として使用でき、かつ学習者が自己の英語能力を診断することができる *Can-do* チェックリストを作成する。
 - ② ヨーロッパ言語ポートフォリオは、言語パスポート(Language Passport)、言語学習記録(Language Biography)、言語資料(Dossier)の3つの構成物から成る。これらの構成物は、ヨーロッパ市民の相互理解を深化させるための複言語主義の進展やヨーロッパ域内での移動の促進、そして自律的言語学習能力の育成を目的に作成されているため、本申請研究で作成する日本の学士課程教育への導入のための英語教育ポートフォリオとは、目的が異なる部分も多い。そこで、ELPの構成物を参考にしつつも、本申請研究では、自律的英語学習の支援を最重要目的としたポートフォリオの構成物を作成する。
- (3) (2)で作成した「学士課程教育導入英語ポートフォリオ」の有効性を、複数の大学で試験的に使用し、検証する。ポートフォリオに含まれる4つのツールの有効性は、質問紙や使用されたポートフォリオを観察することで検証する。また、ポートフォリオの記述やツールの指針が学習者にとって分かりやすく、使いやすいかなどの点検も行う。
- (4) 上記の検証結果を基に、「学士課程教育導入英語ポートフォリオ」に修正を加えた後、大学入学前の学習者が最もアクセ

スしやすい形態を検討し、公開する。

3. 研究の方法

- (1) 大学入学者の英語能力調査及びELPの比較研究をおこなう。
 - ① ELPの比較研究は、ヨーロッパの高等教育で使用されている *Can-do* チェックリストと日本で開発された *Can-do* チェックリストの項目および評価段階を比較対照し、それぞれの特徴、日本の学士課程導入教育で使用する観点からの長所及び短所等を明らかにする。
 - ② 学生の英語能力および学習スタイルの実態調査をTOEICの得点とTOEIC *Can-do* Guideを用い、把握する。特に大学入学前教育の対象となる可能性の高いTOEIC 220点以下の学生とTOEIC 220~470の学生に関しては、英語のどのような知識や運用能力が低いのかを詳しく分析する。
 - (2) *Can-do* チェックリストとその他のポートフォリオ構成物を作成する。
 - ① *Can-do* チェックリストは、前年度に行った研究を基に作成する。その際に、CEFRの初級レベルに必要な言語知識や運用能力を詳細に説明した *Waystage* 1990 (van Ek and Trim 1998)や中級レベルの *Threshold* 1990 (van Ek and Trim 1998)を踏まえ、言語活動のタスクを特定し、*Can-do* チェックリストを作成する。
 - ② 学習者の自律的言語学習を支援するためにワークシートやジャーナルから成るポートフォリオを開発する。①と②を総合し、「学士課程教育導入英語ポートフォリオ」の試作版を完成させ、日本リメディアル教育学会、大学英語教育学会やCercleSセミナー等で発表し、フィードバックを得る。
 - (3) 「学士課程教育導入英語ポートフォリオ」の有効性を検証し、修正を行い、公表する。「学士課程教育導入英語ポートフォリオ」を実際に使用し、その有効性を検証する。特に、*Can-do* チェックリストの有効性やポートフォリオに含まれる4つの構成物の使いやすさを検証する。以上の検証結果を基に、「学士課程教育導入英語ポートフォリオ」に必要な修正を加える。最後に、多くの大学や大学入学前の学習者が最もアクセスしやすいポートフォリオの形態を検討し、公開する。
- ## 4. 研究成果
- (1) 「学士課程教育導入英語ポートフォリオ」を完成させた。
 - ① ポートフォリオの構成物の1つである、Language Biographyに含める自己評価のための *Can-do* チェックリストは、

ELPの比較研究とCEFRの初級レベルに必要な言語知識や運用能力を詳細に説明した *Waystage 1990* (van Ek and Trim 1998) や中級レベルの *Threshold 1990* (van Ek and Trim 1998) を踏まえ、言語活動のタスクを読解に限定し、作成した。汎用性の高い CEFR の能力記述文を基に、特定の目的に即して、具体的な *Can do* チェックリストを作成する方法とステップに関し、大学英語教育学会および、CercleS (European Confederation of Language Centers for Higher Education) Seminar で発表した。そこで得られたフィードバックを基に、“Adaptation of the CEFR to Remedial English Education in Japan” を執筆し、学術雑誌 *Language Learning in Higher Education* に掲載された。

- ② Language Biography に含む学習者の自律的言語学習を支援するためにワークシートやジャーナルは、2 種類のヨーロッパの高等教育用 ELP を参照し、独自に開発した。
- (2) 大学入学前教育にふさわしい教材のあり方についても検討し、教材を開発した。その成果は、リメディアル教育学会第 7 回全国大会で発表した。さらに、「大学入学前英語教育の到達目標設定及び教材に関する提案 (CEFR に基づくアプローチ)」として論文にまとめ、日本リメディアル教育学会誌『リメディアル教育研究』に投稿し、掲載された。
- (3) 「学士課程教育導入英語ポートフォリオ」と英語読解教材が一体化した大学入学前英語教育教材の試作版を完成させ、その有効性を、本試作版を試験的に使用することで、検証した。英語の読解教材の作成にあたり、CEFR の B1 レベルの Reading for information and argument の能力記述文を参考にした。ただし、本教材の対象学習者は、CEFR の A2 レベル(初級上)以下と予測されるため、B1 レベルの読解方略の習得をめざしながらも、A2 レベルの学習者に相応しい英語テキストを作成した。具体的には、語彙は、English Profile を用い、文法項目は Waystage を参照して A2 レベルにコントロールした。さらに、入学前教育では、学習者が独自に学習することが前提となっているため、自律的に学習に取り組めるように「学士課程教育導入英語ポートフォリオ」と英語読解教材を一体化した入学前教材を完成させた。この教材については、日本リメディアル教育学会第 8 回全国大会、及び早稲田大学で開催された大学英語教育学会教育問題研究会主催の語学

教育エキスポ 2013 で発表し、フィードバックを得た。本教材は現在出版準備中である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 9 件)

- ① 永井典子, 綾野誠紀, 岡田圭子, 中西貴行, 『統一基準に基づく入学前英語教育用教材の開発について』, 語学教育エキスポ 2013 (JACET 語学教育研究会, 81-82, 2013, アブストラクト査読有)
- ② Nagai, N., Ayano, S., Okada, K., and Nakanishi, T. “Adaptation of the CEFR to Remedial English Education in Japan”, *Language Learning in Higher Education*, vol.2. 35-57, 2013, 査読有 DOI10.1515
- ③ 永井典子, 綾野誠紀, 岡田圭子, 中西貴行, 『自律的学習支援を目的とする、統一的基準に基づいた入学前英語教育用教材について』, 日本リメディアル学第 8 回会全国大会予稿集, 204-205, 2012, アブストラクト査読有
- ④ 永井典子, 綾野誠紀, 岡田圭子, 中西貴行, 『大学入学前教育の到達目標および教材に関する提案』, リメディアル教育研究, 第 7 巻第 2 号, 52-58, 2012, 査読有 <http://www.jade-web.org/jade/files/download/pdf/7-2.pdf>
- ⑤ Nagai, N., Ayano, S., Okada, K., and Nakanishi, T. “Goal setting for university remedial English courses for incoming students: A CEFR approach” *Proceedings of the 50th Annual Meeting of Japan Association of College Teachers*. The Japan Association of College English Teachers, 374-378, 2011, アブストラクト査読有.
- ⑥ Nagai, N. and O’Dwyer, F. “The actual and potential impacts of the CEFR on language education in Japan” *Synergies Europe* 6, 141-152, 2011, 査読有
- ⑦ Nagai, N. “CEFR-based English Curriculum at a Tertiary Institution”, *JACET Summer Seminar Proceedings: Theory and Practice in Communicative Language Teaching (CLT): the role of the European Language Portfolio (ELP)*, 15-20, 大学英語教育学会, 2010, 査読無
- ⑧ Nagai, N. “Designing English curricula and courses in Japanese higher education: Using CEFR as a guiding tool”, *Can do statements in language education in Japan and beyond*, 86-104,

朝日出版, 2010, 査読無

- ⑨ 永井典子『総合英語プログラム全学導入と新たな挑戦』, 英語教育学大系, 17 巻, 219-237, 大修館, 2010, 査読無
<http://www.jacet.org/jacet50books/11.pdf>
[学会発表] (計 9 件)
- ① 永井典子, 綾野誠紀, 岡田圭子, 中西貴行, 『統一基準に基づく入学前英語教育用教材の開発について』, 語学教育エキスポ 2013(JACET 教育問題研究会), 早稲田大学, 2013. 3. 17.
- ② O' Dwyer, F., Nagai, N., and Imig, A. "Linked and cyclical classroom tasks", 12th CercleS Conference, London (UK) 2012. 9. 7
- ③ 永井典子, 綾野誠紀, 岡田圭子, 中西貴行, 『自律的学習支援を目的とする, 統一的基準に基づいた入学前英語教育用教材について』, 日本リメディアル教育学会第 8 回全国大会, 立命館大学, 2012. 8. 29.
- ④ Nagai, N., Ayano, S., Okada, K., and Nakanishi, T. "Adaptation of the CEFR to remedial English education at the tertiary level in Japan". CercleS Seminar: Ten years of the CEFR and the ELP. Groningen University (the Netherlands). 2011. 11. 25
- ⑤ 永井典子, 綾野誠紀, 岡田圭子, 中西貴行, 『大学入学前英語教育への CEFR の導入について: 到達目標設定及び教材作成に関する提案』, 日本リメディアル教育学会第 7 回全国大会, 福岡大学, 2011. 9. 2.
- ⑥ Nagai, N., Ayano, S., Okada, K., and Nakanishi, T. "Goal setting for university remedial English courses for incoming students: A CEFR approach", JACET (大学英語教育学会) 第 50 回記念国際大会, 西南学院大学, 2011. 8. 30
- ⑦ Nagai, N. "The development of a coherent language teaching system: integration of learning outcomes, teaching materials and assessment methods", 第 36 回全国語学教育学会年次国際大会・教材展, 愛知県産業労働センター, 2010. 11. 20
- ⑧ Nagai, N. "Designing English Curriculum for Higher Education Based on CEFR", JACET Summer Seminar 招待講演, 草津セミナーハウス, 2010. 8. 24
- ⑨ Nagai, N. "Adaptation of CEFR to the English Curriculum in Japanese Higher Education", 全国語学教育学会群馬支部, 招待講演, 前橋工科大学, 2010. 7. 18

[図書]

無し
[産業財産権]
無し
[その他]
無し

6. 研究組織

(1) 研究代表者

永井 典子 (NAGAI NORIKO)
茨城大学・人文学部・教授
研究者番号: 60261723

(2) 研究分担者

綾野 誠紀 (AYANO SEIKI)
三重大学・人文学部・教授
研究者番号: 00222703

岡田 圭子 (OKADA KEIKO)
獨協大学・経済学部・教授
研究者番号: 90316274

中西 貴行 (NAKANISHI TAKAYUKI)
常磐大学・人間科学部・講師
研究者番号: 10406019

(3) 連携研究者

無し